「ないものではなく、与えられているものを」マタイ１４：１３－２１　１８・４・２９

Ⅰ　主は素晴らしいお方。先行する恵み。

「イエスは舟から上がり、大勢の群衆をご覧になった。そして彼らを深くあわれんで、彼らの中の病人たちを癒された」：１４。

主は、今も、私達をご覧になり、深くあわれんで下さる。そして、罪という霊的な病を持っている私達を、赦し、霊的に癒し続けておられる！

Ⅱ　弟子達は言った。

「村に行って自分たちで食べ物を買うことができるように、群衆を解散させてください」：１５。

しかし、イエスは言われた。

「彼らが行く必要はありません。あなたがたがあの人たちに食べる物をあげなさい」：１６。

イエス様は、無から有を創造する、何でもできる方。しかし、主は、すぐに奇蹟を起こすのではなく、まず、私達が、神からすでに与えられている物を主の為、人の為に用いる事を喜ばれる。

Ⅲ　弟子たちは言った。「ここには五つのパンと二匹の魚しかありません」：１７。

ヨハネ６：９には、こう記されている。

「ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるのでしょう」：９。

※子供達へ。

するとイエスは「それを、ここに持って来なさい」と言われた。：１８。

本日は、ここの御言葉から深く教えられたい！

①弟子達は、五つのパンと二匹の魚「しか」ありませんと言った。

私たちの生き方には、二種類の生き方がある。

一つは、「しか」ありませんという否定的な生き方。

もう一つの生き方は、何もないのではなく、「五つのパンと二匹の魚があります！」という生き方。

これ「しか」ないという否定的な生き方ではなく、「これも」「あれも」与えられている！ないものを数え文句を言う人生は、幸いではない。それとは違い、神から与えられているものを数え、感謝して、それを、主のもとに持って行く、おささげする人生。そこから神の素晴らしい御業、奇蹟が始まる！

「金銭を愛する（執着する）生活をせずに、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が『わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない』といわれたからです」（ヘブル１３：５）。

私達は、本日、自分に問いかけてみたい。私の生き方、考え方の傾向は、どちらだろうか？

ⅰいつも「これしかない」という否定的な生き方に縛られ、自ら人生を暗くしているか。それとも

ⅱ「これも、あれも、神は下さっている。人と比べて劣等感を持ったり優越感に浸るのではなく、今既に神が与えられているものを感謝して用いていただこう」という人生か。

それは同じ状況でも、心の選択、受け止め方、心の中の不平のボタン（スイッチ）と感謝のボタン（スイッチ）のどちらを押すかで変わる。

※教会のおトイレに掛けられている三浦綾子さんの著作の中で、災害に会った方の言葉が記されている。私は、教えられる。「災害に遭うと人の情けが身に沁みるよ。…失ったものばかり数えてみても、生きる力にならん。自分に残されたものを、数えて感謝しなくちゃな」。

パラリンピックに参加する方々も、このプロセスを通られて立ち上がられたのではと思う。

本日の御言葉で注目したいのは、主イエスの態度、お言葉である。弟子達が、「〇〇しかありません」と言っ

た時、主は、がっかりしたり、「何だ！それだけしかないのか」とは言われていない。少しも動じることなく、「それを、ここに持って来なさい」と言われた。私は、この主の御言葉に感動する！

②主は、特別な人、特別な物を用いて御業を行う方ではない。

ここで、用いられたのは少年であり、少年が独り占めにしないで、弟子たちのもとに持って来た５つのパンと２匹の魚である。私達も、自分自身と自分に神から与えられた賜物を主のところに持って行きたい。主は、喜んで用いて下さる。昔も今も同じである。主がお用いになるのは、高慢な強い大人ではい。謙遜な子供、謙遜な大人、謙遜なお年寄りである。神は子供達の賛美を喜ばれ、大人達の分に応じた感謝から生まれる奉仕を喜ばれ、お年寄りが礼拝（英語の Service は、礼拝の意味も、奉仕の意味もある）に参加されるのを喜ばれる。

私達が、年を重ね、また病で礼拝に出られない時、何もできないのではない。最高の奉仕＝色々な人々の為にとりなしの祈りの奉仕ができる。ＪＥＣＡの祈りのハンドブックを見ながら、当教会の為にも祈って下さる関東の８０歳のご婦人の祈りと愛に励まされる！

Ⅳ　「それからイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂いて弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った」：１９。

①主は、五つのパンと二匹の魚を「これしかないのか」と言われず、喜んで少年から受け取られた。そして、すぐに配られず、「天を見上げて神をほめたたえ」られた＝祝福の祈り、天を見上げて＝天に視点を置き、神をほめたたえ＝神がパンを与えて下さった事を感謝し、そのパンを通して、これから配布される人々に豊かな健康と繁栄が与えられる様に、との祈りを含んでいる。私達が、自分自身と、神から与えられた賜物を主のもとに持っていくとき、主は今も神をほめたたえ祝福して下さる。

②「パンを裂いて」＝主は、私たち自身を、私達の賜物を、そのままでは用いられない。私達の高慢を裂いて、へりくだらせ、人をさばかず、神に栄光を帰す者として用いられる。

③パンを裂かれ、ご自身で群衆に配られなかった。

「パンを裂いて弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った」：１９。

主は、全能の神でもあられるので、ご自分でお配りになる事ができた。しかし、主は、あえて、弟子達に大切な奉仕を与え用いられた。

私達は、主の教えだけではなく、主が与えて下さる奉仕の実践の中で成長させられる。無理をした奉仕ではなく、自分の分に応じた奉仕は、その人を成長させる。主の御業に参加させていただいている喜びが与えられる。出番のある教会！

Ⅴ　「人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパンきれを集めると、十二のかごがいっぱいになった」：２０。

「余ったパンきれを集めると、十二かごがいっぱいになった」。

２０１１年、当教会は、会堂返済の借金と会堂の外壁の修理の為に多くの借金があった。マイナスの状態である。しかし、神は、この１７年間、お一人お一人の奉げ物を用いて、会堂返済を完済させ、墓地を与えられた。「あまりの」神の恵みに感謝！先週の会計総会で報告された神の恵みによる２０１８年３月３１日の一般会計の残高は、マイナスではなく、プラスであった。神は、今も生きておられ、私達が、何もしないで、天からお金が降って来るのを待つのではなく、それぞれが、自分の分に応じて感謝し神に奉げる時、神は不足分を豊かに満たして下さる。あり余るほど！

Ⅵ　私達が、「これしか持っていません」と言うと、今も主は、あなた自身とあなたに与えられた賜物を私のもとに「持って来なさい」と言われる。主は、それを豊かに用いられる。